

第 51 回筑波大学学園祭「雙峰祭」

学園祭総括報告書

目的の評価

目的の評価補足資料

決算報告書

学園祭実行委員会

第 51 回筑波大学学園祭「雙峰祭」

総括報告

I. 概要

II. 詳細

I.	概要.....	2
A.	名称	2
B.	目的	2
C.	テーマ	2
D.	日程	2
E.	会場	3
F.	主催・後援	3
G.	運営組織.....	4
H.	企画	4
II.	詳細.....	5
A.	委員長団.....	5
B.	財務局	5
C.	総務局	6
D.	広報宣伝局	7
E.	渉外局	9
F.	推進局	10
G.	総合計画局	10
H.	情報メディアシステム局	11
I.	ステージ管理局.....	12
J.	本部企画局	12
K.	案内所運営部会	13

I. 概要

A. 名称

第 51 回筑波大学学園祭「雙峰祭」

B. 目的

変化の時代を迎えた今、多様な価値観が共存できる場を目指し、次の半世紀に向けて新たな歩みを進めるとともに、筑波大学の魅力をより多くの人々に力強く発信する場とする。

C. テーマ

全学的な投票によって今年度のテーマは「むすんで、ひらけ」に決定した。受け手の想像や感情によって様々な意味に捉えられる本テーマは、これまでの積み重ねや歴史、携わってきた人々の想いを今一度「むすんで」、そこから未来へと新たな可能性を「ひらく」という願いが込められている。

D. 日程

準備日	2025 年 11 月 1 日(土)	
前夜祭	2025 年 11 月 1 日(土)	14:30～20:50
本祭 1 日目	2025 年 11 月 2 日(日)	10:00～20:30
本祭 2 日目	2025 年 11 月 3 日(月)	10:00～18:00
後夜祭	2025 年 11 月 3 日(月)	17:50～20:45
片付け日	2025 年 11 月 4 日(火)	

配線関係のトラブルにより前夜祭の終了時間が 10 分遅れた。

E. 会場

1. 屋外

第二エリア、第三エリアから体育・芸術エリア(以下、体芸エリア)までのペデストリアンデッキ沿いを会場として使用する。

ただし、上記エリアのうち、以下を緊急避難場所としても使用する。

- ☐ 第三エリア北側駐車場
- ☐ 本部棟北側駐車場
- ☐ 人間系学系棟東広場
- ☐ 本部棟南側駐車場
- ☐ 中央図書館西側広場
- ☐ 大学会館北側駐車場
- ☐ ミューズガーデン
- ☐ 工房棟南側広場
- ☐ 陸上競技場

2. 屋内

- ☐ 1A・1B・1C・1D・1E・1H 棟
- ☐ 2A・2C・2D 棟
- ☐ 3A・3B・3C・3K 棟
- ☐ 5C 棟
- ☐ 6A・6B 棟
- ☐ 共同利用棟 A 棟
- ☐ 大学会館
- ☐ 開学記念館
- ☐ 中央図書館
- ☐ 総合交流会館

2B 棟は使用しなかった。

F. 主催・後援

主催 全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議(以下、全代会)

後援 筑波大学紫峰会基金

一般社団法人茗溪会

筑波大学基金

つくば市

G. 運営組織

学園祭を安全かつ円滑に実行することを目的とした組織として学園祭実行委員会(以下、学実委)を組織する。学園祭全体を総括する責任者として委員長を置き、そのもとに以下の局・専門部会を置く。(業務内容の詳細は「II. 詳細」)

- ☐ 委員長団
- ☐ 財務局
- ☐ 総務局
- ☐ 広報宣伝局
- ☐ 渉外局
- ☐ 推進局
- ☐ 総合計画局
- ☐ 情報メディアシステム局
- ☐ ステージ管理局
- ☐ 本部企画局
- ☐ 案内所運営部会

また、学実委は必要と認めた際に、本学の学生及び教職員等の学実委外の人員をサポートメンバーとして登録し、学実委の業務を委託することがある。

H. 企画

当日行われる模擬店、イベント等を指す。学実委が中心となって行う委員会開催企画、ステージを使用するステージ企画、委員会開催企画・ステージ企画に該当しない一般企画に分類する。

II. 詳細

A. 委員長団

5. 筑波大学基金の申請

学生生活課を通して事業・リレーション推進室に筑波大学基金を申請し、150 万円の支援を受けた。

8. 参加者を対象としたアンケートの実施

参加者アンケートを実施し、2,532 件の回答を得た。内容については「目的の評価補足資料」を参照。

9. 企画者団体を対象としたアンケートの実施

企画者を対象としたアンケートを雙峰祭オンラインシステムにて公開し、回答を得た。

B. 財務局

2. 金銭管理

学園祭の準備及び運営を行うための金銭全般を管理した。監査として、全代会学内行事委員会による外部監査を 2 回、内部監査を 1 回実施した。

3. 運営資金の調達

(2) 筑波大学紫峰会基金 課外教育行事援助金

筑波大学紫峰会基金に課外教育行事援助金を申請し、100 万円の支援を受けた。

(3) 茗溪会援助金

一般社団法人茗溪会に 2025 年度茗溪会学生活動支援援助金を申請し、10 万円の支援を受けた。

4. 保険の管理

チケット売り上げが想定より少なく、企画を中止した場合のリスクが少ないと判断したため、以下の保険は契約しなかった。

(5) 興行中止保険

委員会開催企画である「アーティスト招致企画」(詳細は「J.本部企画局」)が中止となり、チケット代を返金する場合、それに関連する損失を補填するための保険。

C. 総務局

1. 一般企画(学術認定企画・芸術祭参加企画を含む)の募集

(1) 募集要項の作成

一般企画用募集要項・ステージ企画用募集要項を作成し、雙峰祭公式 Web サイトに掲載した。当初予定していた雙峰祭オンラインシステムへの掲載は、使用可能教室の変更の可能性がある、それによる混乱を防ぐため行わなかった。

(3) 企画責任者本人確認

全ての一般企画の企画責任者に対し、本学の構成員であるかを確認するため、メールにて本人確認を行う予定であったが、雙峰祭オンラインシステムでメールアドレスを確認できるため、省略した。メールアドレスの訂正は随時対応した。

2. 学術認定企画制度の運用

学術認定企画には優遇措置として、企画数制限の対象外とし、雙峰祭公式パンフレットにおいて特設ページを設けた。

3. 芸術祭参加企画制度の運用

芸術祭参加企画には優遇措置として、希望した教室で実施できるよう調整を行った。

4. 企画に関する情報の管理

実行計画書に記載したことに加え、学生生活課からの要請を受け、全企画の企画構成員を網羅した企画構成員リストを作成した。

5. 企画団体への連絡・指示

(1) 企画団体責任者連絡集会の実施

学園祭に関する連絡事項を伝えるため、一般企画の企画責任者を対象に対面で4回開催した。当初予定していた第5回は、連絡事項が少なく、雙峰祭オンラインシステムを用いるなどして連絡可能であると判断したため中止とした。

(3) 企画に対する処分

学園祭期間中に、不適切な調理手順により調理用油を大学設備や電工ドラム・ガスボンベに大量に付着させた企画を、火災の危険性が高いと判断したため企画中止処分とした。

学園祭期間中に、無断で大電力を使用し学実委に虚偽報告をした企画を、警告処分とした。

学園祭期間中に、学実委が貸与したコンクリートブロックを放置しその後紛失した企画を、警告処分とした。なお、紛失していたコンクリートブロックは、片付け日に発見した。

学園祭期間前に、各種講習会の無断欠席や申請の未提出が多発した複数の企画を、企画中止処分とした。

D. 広報宣伝局

1. 広報宣伝活動

(1) オフィシャルポスターの掲示

つくば市を中心とした茨城県内及び関東圏の学校や公共交通機関へオフィシャルポスターの掲示を依頼した。市町村役場・公共施設・近隣商店へは依頼しなかった。

(2) 情報誌への広告掲載

『筑波大学新聞』に広告の掲載を依頼しなかった。『紫峰の風』に学園祭に関する記事を掲載してもらった。

(3) 横断幕の設置

① 設置期間

2025年10月23日(木)～11月4日(火)

今年度の横断幕の作成を依頼していた業者の不手際により、発注が漏れていたため申請の提出が遅れ、上記の日程となった。

(5) 学内での広報宣伝活動

④ 大看板の設置

本祭 1 日目までの日数を表示したカウントダウン看板を学内に掲示した。

(a) 設置期間

春日エリア・医学エリア・体芸エリア：2025 年 10 月 20 日(月)～11 月 4 日(火)

一学エリア・二学エリア・三学エリア：2025 年 10 月 21 日(火)～11 月 4 日(火)

一学エリア・二学エリア・三学エリアについては、人員不足により設置が遅れた。

⑤ 雙峰祭旗の設置

「雙峰祭」という文字がデザインされた旗を会場内、大学構内のバス停付近及びバス停から会場の動線上に設置した。

(a) 設置期間

2025 年 11 月 1 日(土)～11 月 4 日(火)

本祭期間の予定を考慮し、前夜祭の設置が最善であると判断した。

⑥ 懸垂幕の設置

中央図書館横の螺旋階段に、学園祭周知のための懸垂幕を設置した。

(a) 設置期間

2025 年 10 月 9 日(木)～11 月 4 日(火)

「(3) 横断幕の設置」における申請遅延と同様の理由により、本件についても申請の提出が遅れ、上記の日程となった。

5. オフィシャルポスターの制作・管理

学園祭公式テーマに沿ってポスターを制作及び管理し、学園祭の日時・場所等、必要な情報を周知した。

(2) 配付

調整に時間を要したため、本来予定していた時期よりも遅らせた 10 月上旬から 10 月中旬にかけて学内外にオフィシャルポスターを配付し、掲示を依頼した。

6. 雙峰祭公式パンフレットの制作・管理・頒布

実施企画の紹介、学内の地図等を掲載した雙峰祭公式パンフレットを制作及び管理した。

(2) 頒布

6,000 部を制作した。当日に各案内所(詳細は「K.案内所運営部会」)にて来場者に 3,277 部を 1 部あたり 200 円で販売した。また、事前に学園祭実行委員やサポートメンバー及び本祭期間あるいは学園祭後に渉外活動として一般協賛協力団体(詳細は「E.渉外局」)に、851 部を無料配付した。

7. 雙峰祭公式リーフレットの制作・管理・配布

簡易的な学内の地図や諸注意等を掲載した無料の雙峰祭公式リーフレットを制作及び管理した。

(1) 配布

10,000 部を制作した。当日に各案内所にて、8,127 部を無料配布した。

9. 企画宣伝支援

(1) 常設企画宣伝用掲示板

① 設置期間

2025 年 10 月 22 日(水)～11 月 4 日(火)

二次宣伝申請への対応が長引いたため、申請の提出が遅れ、上記の日程となった。

(2) 特設企画宣伝用掲示板

① 設置期間

2025 年 10 月 22 日(水)～11 月 4 日(火)

常設企画宣伝用掲示板と時期を揃えた。

E. 渉外局

3. 福引所運営

参加者アンケートに回答した来場者を対象に福引所を運営した。景品は物品調達によって入手した。2 日間の開催期間に、約 2300 人の来場者が足を運んだ。

F. 推進局

1. 保健衛生の管理

(6) 食品の回収

前夜祭・本祭1日目の企画準備時間終了後、食品を企画実施場所に放置していた企画に対し、食品の回収・保管を行った。回収した食品は、当該の企画団体に通知をした上で、学実委が保管した。指定時間までに受け取りに来た企画団体には直接返却し、企画団体が指定時間までに受け取りに来なかった食品・衛生上問題がある食品については、該当企画へ事前に連絡をした上で廃棄処分とした。

2. 各種物品調達

(2) テント

テントの企画への貸出および大学からの借用を予定通り行った。また、トラックの借用先はつくばローカルコミュニティとした。

(6) ガス

今年度は企画団体からの申請数が多かったため、つくば市谷田部農業協同組合に加え、十一屋燃料株式会社にも発注した。

G. 総合計画局

1. 会場配置計画

(1) 企画数制限の実施

応募した団体数が実施可能数を超過したため、屋内・屋外で学術認定企画等を除き一律で抽選を行い、企画数制限を実施した。

また、一次募集において落選した企画のうち、企画内容を変更し、仕込場を使用しない形とすることを条件として、屋外企画に関する二次募集を実施した。当該募集に関しても応募した団体数が実施可能数を超過したため、企画数制限を実施した。

(4) 休憩所の設営・運営

第一エリア休憩所で委員会開催企画「ぶらり旅企画」を、プロジェクターを通して上映する予定であったが備品の不調のため、実施を見送った。

設営場所や運営時間に関しては計画どおり実施した。

2. 電気計画

事前に計画された配線計画に基づき配線を行い、停電等のトラブルなく実施した。
仮設分電盤の設置等は有限会社信濃電設に委託した。

(2) 仮設コンセント

仮設コンセントは設置しなかった。

3. 机椅子移動計画

夜間、机椅子等の備品を夜露から保護する対策を取っていない企画に対して注意を行った。

4. 美化計画

燃えるごみは約 4 t、ペットボトルは約 200 kg が学園祭期間中に処理された。また、ごみの回収業務は以下の業者の協力を得て実施した。

- ・筑波学園環境整備
- ・斎藤英次商店
- ・サンアメニティ

5. 総合交通計画

(6) 看板設置

一時的にすべての一般駐車場が満車となり、満車を示す看板を作成・掲示した。

6. 装飾規定計画

10月7日(火)に実施された第3回企画団体責任者連絡集会において、一般企画に対して本年度の装飾規定を公開し、当該規定に基づき、本祭期間に大学の設備や施設を破損、汚損する可能性や来場者を危険にさらす可能性がある装飾の撤去や一般企画に対して注意等の措置を行った。

H. 情報メディアシステム局

情報メディアシステム局が実施する事項として実行計画書にて計画していた各項目につき、特段の問題なく実行した。

2. 各種 Web サイトの制作・管理・公開

学実委または学園祭に関連する Web サイトを制作し、管理した。雙峰祭公式 Web サイトについては、約 26 万回を超える閲覧があった。また、企画検索システムを構築し、来場者の企画情報へのアクセスに使用された。

I. ステージ管理局

UNITED ステージ、1A ステージ、大学会館、前夜祭・後夜祭、花火の打ち上げを実行計画書に従い、問題なく実施した。

5. 本祭における各ステージの管理・運営

雨天予報のため、準準備日 10 月 31 日(金)に人文社会系長室を通り、1A 棟 3 階ベランダに懸垂幕を吊るす作業を、実行計画書よりも早く実施した。

J. 本部企画局

1. 学術企画部門

(1) 受験応援

両日あわせて約 1,000 名が受験相談会に来場した。

(2) 実験教室

両日あわせて約 1,700 名が来場した。

(3) つくばイチ受けない授業

1D 棟での講演には両講演あわせて約 360 名、大学会館には両講演あわせて約 1,300 名が来場した。

2. 来場者参加型企画部門

(1) 体験型脱出ゲーム

両日ともに、全ゲームを満員で終え、参加料金は 914 人から受領した。企画参加者に紙媒体でアンケートを行った結果、満足度は 5 点満点中、平均 4.5 点であった。

(2) 樽酒振る舞い企画

全日程あわせて 1,856 名が来場した。酒造から協賛してもらったお酒は配り切ることができた。

(4) 松美池ライトアップ企画

水面灯籠の作成体験には、71 名が来場し、39 個の灯籠を作成してもらった。

3. 夜祭企画部門

(2) 雙峰祭グランプリ

前夜祭と本祭 2 日間で合計 3,508 票の投票がされた。後夜祭の表彰式にて、一部受賞企画を誤った形で表彰することになってしまったため、後日正式な表彰結果を企画の SNS 及び雙峰祭公式 SNS にて公表した。これに伴い、当初は、ステージ企画部門と一般企画部門のそれぞれの部門で、最優秀賞・学生賞・優秀賞(2 企画)の計 8 企画を表彰する予定であったが、一般企画部門における優秀賞受賞企画を 1 企画増やして 3 企画表彰した。

4. 部門無所属

(1) つくば市コラボ

企画の特性上、写真が主な投稿材料であったため、X は使用せず、Instagram のみで投稿した。

(3) アーティスト招致企画

163 人がチケットを購入した。後方の無料エリアにも人が集まった。また、ライブ終了後に行った特典会にも多くの人が訪れた。

K. 案内所運営部会

8. 緊急時の対応

本祭 1 日目の 13:30 頃、第一エリア・大学会館エリアで虫が大量に発生し、提供する食品に虫の混入の恐れがあったため、来場者の健康・安全を最優先し当該エリアの屋外の調理企画の一時中断を決定した。雙峰祭オンラインシステム・雙峰祭公式 SNS・当日放送にて、企画団体と来場者に周知した。同日 14:30 頃、虫の発生が収まったため、当該エリアの屋外の調理企画を再開し、同様に企画団体と来場者に周知した。